



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月6日

上場会社名 セントラルスポーツ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4801 URL https://www.central.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 聖治
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 刀禰 精之 TEL 03-5543-1803
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	40,689	△0.1	2,863	△2.1	2,475	△5.4	1,604	△8.2
2019年3月期第3四半期	40,744	1.3	2,926	△7.2	2,617	△8.5	1,747	△8.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,580百万円 (△9.6%) 2019年3月期第3四半期 1,748百万円 (△7.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	142.73	—
2019年3月期第3四半期	155.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	42,723	24,199	56.6	2,159.07
2019年3月期	43,125	23,702	54.9	2,102.44

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 24,182百万円 2019年3月期 23,685百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	39.00	—	39.00	78.00
2020年3月期	—	39.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	39.00	78.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,100	3.4	4,885	15.2	4,400	11.4	2,850	8.0	252.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	11,466,300株	2019年3月期	11,466,300株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	265,659株	2019年3月期	200,614株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	11,243,923株	2019年3月期3Q	11,265,775株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

業績予想の前提条件及びその他関連する事項については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、引き続き米中対立や英国のEU離脱等、政治・政策面での不安要素により不透明な状況が続きました。国内経済は、消費増税の影響があるものの限定的であり、堅調な雇用・所得環境により景気は底堅く推移しました。

当フィットネス業界におきましては、人生100年時代へ向けた取り組みや働き方改革によるライフスタイルの変化への対応として、健康に関する様々な分野における事業やサービスの展開が広がりをを見せております。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、各種スポーツ競技会及びイベントが数多く開催され、国民のスポーツに対する関心は益々大きくなり、スポーツに触れる機会が増えてきております。

当社所属選手も活躍し、10月の第61回日本選手権(25m)水泳競技大会では、松元克央(まつもとかつひろ)が400m自由形で優勝、200m自由形では短水路日本新記録を樹立し優勝しました。同じく10月に開催された第49回世界体操競技選手権大会(ドイツ・シュツットガルト)では、萱和磨(かやかずま)が個人総合で6位、種目別では平行棒で3位、あん馬で5位を獲得、団体競技では萱と谷川航(たにがわわたる)が銅メダルを獲得、畠田瞳(はただひとみ)が東京オリンピック女子団体出場枠の獲得に貢献しました。11月の第73回全日本体操競技団体選手権大会では、セントラルスポーツ男子体操競技部が見事初優勝を飾りました。また、フィギュアスケートでは、サポート選手の友野一希(とものかずき)が11月の第45回西日本選手権大会にて優勝しました。

このような状況の中、当社グループは経営理念である『0歳から一生の健康づくりに貢献する』のもと、お客様の心に響くサービスを目指し、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

店舗につきましては、10月に直営店「セントラルスポーツ ジムスタ24福岡アイランドシティ店」(福岡市東区)と「セントラルフィットネスクラブ東松山高坂店」(埼玉県東松山市)、11月に「セントラルスポーツ ジムスタ24豊中駅前店」(大阪府豊中市)の3店舗の運営を開始しました。以上により当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、直営176店舗、業務受託64店舗の合計240店舗となりました。

会員動向につきましては、スクール会員は前年を上回る水準で推移していますが、フィットネス会員は主に既存の総合型フィットネスクラブの会員数が減少傾向となり、前年を下回っております。

店舗運営につきましては、新規会員の獲得と既存会員の継続率向上・退会防止に努めるとともに、顧客満足度調査の結果をもとに課題改善の取り組みを進めております。また、既存店舗のリニューアル工事を計画的に進めることにより施設環境の改善にも努めております。

フィットネス会員向けには、10月より「Fitness Navi」アプリのサービスを開始し、日々のトレーニングの管理やポイントシステムによるサービスの提供をしております。また、人生100年時代の到来を見据え、元気な百寿者(センテナリアン)を目指す方々を「セントラリアン」と名付け、「セントラリアン」を応援するための新コンセプトプログラム“スポーツタイム・アートタイム・学びタイム・動きタイム”を開発し、全国約50クラブで展開し始めました。今後も元気で幸せな「セントラリアン」の誕生を目指し、取り組みを進めて行く予定です。

CSR活動としては、従業員の健康増進の為に積極的にスポーツの取り組みを行っている企業を応援するスポーツ庁の「令和元年度スポーツエールカンパニー」、スポーツ活動推進やスポーツ分野での社会貢献活動を実施している企業を認定する「令和元年度東京都スポーツ推進企業」に認定されました。

その他、東京大学大学院医学系研究科とフィットネスクラブに通う会員のデータを基に運動の社会経済的な効果についての共同研究「フィットネスの医療経済学的な効果評価」をスタートしました。また、10月より総務省が推進する地域活性化に向けた「地域おこし企業人交流プログラム」により、沖永良部島(鹿児島県大島郡和泊町)へ社員を派遣しました。今後は地域の皆さまの健康並びに島の魅力・価値向上に寄与していく予定です。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は40,689百万円(前年同期比0.1%減)、経常利益は2,475百万円(前年同期比5.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,604百万円(前年同期比8.2%減)となりました。なお、前年同期と比べ減益となった主な要因は、新規出店増と既存店の伸び悩みによるものです。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ401百万円減少し、42,723百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が減少したこと等により流動資産が1,956百万円減少し、有形固定資産が増加したこと等により固定資産が1,554百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ898百万円減少し、18,523百万円となりました。その主な要因は、前受金が減少したこと等により流動負債が1,205百万円減少し、長期借入金が増減、固定負債の中のリース債務が増加したこと等により、固定負債が307百万円増加したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ496百万円増加し、24,199百万円となりました。この結果、自己資本比率は、56.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、本資料公開時点において、2019年5月13日の決算短信で発表しました通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,420	3,607
受取手形及び売掛金	1,227	985
商品	246	322
貯蔵品	69	71
その他	1,319	1,340
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	8,281	6,325
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,365	32,636
工具、器具及び備品	5,397	5,690
土地	7,634	7,765
リース資産	6,455	7,198
その他	601	127
減価償却累計額	△28,747	△29,882
有形固定資産合計	21,707	23,536
無形固定資産	284	288
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,043	908
敷金及び保証金	10,727	10,595
その他	1,132	1,119
貸倒引当金	△50	△50
投資その他の資産合計	12,852	12,573
固定資産合計	34,844	36,398
資産合計	43,125	42,723

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	262	263
短期借入金	—	1,000
1年内返済予定の長期借入金	949	762
未払法人税等	833	178
賞与引当金	727	358
役員賞与引当金	64	46
前受金	3,111	1,731
その他	4,526	4,929
流動負債合計	10,476	9,270
固定負債		
長期借入金	1,988	1,613
リース債務	5,020	5,617
退職給付に係る負債	108	113
資産除去債務	1,354	1,435
その他	473	474
固定負債合計	8,946	9,253
負債合計	19,422	18,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,261	2,261
資本剰余金	2,273	2,273
利益剰余金	19,566	20,292
自己株式	△418	△623
株主資本合計	23,682	24,203
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	20
為替換算調整勘定	△15	△40
その他の包括利益累計額合計	2	△20
非支配株主持分	17	16
純資産合計	23,702	24,199
負債純資産合計	43,125	42,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	40,744	40,689
売上原価	34,916	34,911
売上総利益	5,828	5,777
販売費及び一般管理費	2,901	2,913
営業利益	2,926	2,863
営業外収益		
補助金収入	26	21
受取保険金	74	—
保険配当金	0	17
その他	46	38
営業外収益合計	147	76
営業外費用		
支払利息	450	460
その他	5	4
営業外費用合計	456	465
経常利益	2,617	2,475
特別損失		
店舗閉鎖損失	105	—
減損損失	12	24
特別損失合計	118	24
税金等調整前四半期純利益	2,499	2,450
法人税、住民税及び事業税	701	713
法人税等調整額	50	133
法人税等合計	751	846
四半期純利益	1,747	1,604
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,747	1,604

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,747	1,604
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	1
為替換算調整勘定	3	△25
その他の包括利益合計	0	△23
四半期包括利益	1,748	1,580
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,748	1,581
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年9月27日開催の取締役会決議に基づき、2019年10月1日付で自己株式65,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が205百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が623百万円となっております。